

# 平成27年度 職員採用案内



社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園

## 経営理念

### 「共生と共創」

知的発達障害を持つ人々と共に生き共に創る社会をめざす

- 1 知的発達障害を持つ人の基本的人権を尊重し、その人なりの自己実現を図り、より豊かな人生を送ることができるよう支援する。(エンパワメント)
- 2 利用者の主体性を尊重し、本人・家族の期待に応えられるよう努める。(主体性尊重)
- 3 地域社会のなかの重要な社会資源であることを認識し、常に開拓的精神をもって地域福祉の向上に寄与する。(フロンティア精神)
- 4 本人・家族・職員の幸福な人生に寄与するために安定した施設経営に努める。(安定経営)

## 基本方針

- 1 利用者の健やかな成長・発達を願い、個々のニーズに応じた適切な支援を行う。
- 2 利用者が健康で快適な生活を送ることができるよう、常に清潔で安全な生活環境を保つように努める。
- 3 利用者の自己決定権を尊重し、その権利を行使しうる環境づくりに努める。
- 4 利用者は地域社会の一員であるということを認識し、社会参加の機会をできるだけ多く確保するよう努める。
- 5 施設は地域社会の中の一社会資源であるということを自覚し、地域福祉サービスの推進に積極的に取り組み、地域福祉の向上に寄与する。
- 6 職員は自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ね、専門的支援技術の向上に努める。

社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園  
統括施設長 水流 純大



## 施設の沿革

社会福祉法人落穂会あさひが丘学園は、昭和33年8月に鹿児島県内では民間初の精神薄弱児施設（現在は障害児入所施設）として鹿児島市永吉町に開設し、これまで55年間にわたり障害児者やその家族の支援を行ってきました。現在は、鹿児島市皆与志町の障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘、岡之原町の地域生活支援センターあさひが丘、呉服町のガーデンキッズセルク・トリアなど、障害児者に関わる20の事業を行っています。

## 基本理念

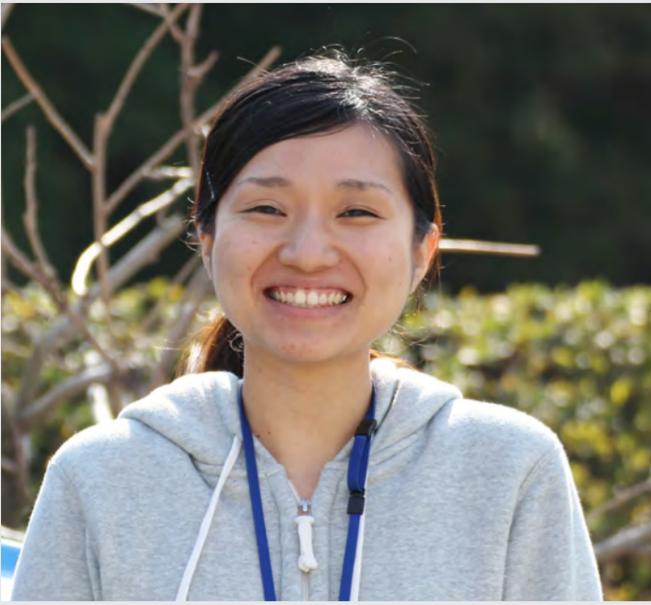
社会福祉法人落穂会の基本理念は、「共生と共創」（知的発達障害を持つ人々と共に生き、共に創る社会をめざす）です。知的発達障害を持つ人々の基本的人権や主体性を尊重し、本人の自己実現を図り、より豊かな人生を送るための支援を行うことを目標としています。そのためには、私たちは地域社会の中の重要な社会資源であることを自覚し、常に開拓的精神をもって地域福祉の向上に寄与したいと思っています。

## 必要とする人財

福祉の仕事は何らかの援助を必要としている人の生活や人生を支えるというきわめて責任の重い、大切な仕事です。自分自身の働きが、援助を必要としている人の生活や人生に喜びや潤いを与えることができるとしたら、そのこと自体を自分自身の大切な価値観とすることができるかということ、つまり、「他人の喜びを自分の喜びとすることができるか」ということを常に自分自身に問い続けていくことが重要です。一方で、この仕事は援助者である私たちが利用者に対して一方的に与えているのではなく、お互いに与え、与えられる関係でもあります。私たちが利用者の皆さんからかけがえのない無形の財産を与えられ、それによって人間的な成長が図られていきます。

「福祉は人なり」です。私たちの理念を実現するためには、そこで働く「人」が最も重要であり、「人がすべて」といっても過言ではありません。「じんざい」は、「人在」（そこにいるだけの人）ではなく、「人材」（組織に貢献し成長する可能性を秘めている人）にとどまることなく、「人財」（組織の宝でありなくてはならない存在）であってほしいと思います。

障害児者福祉に関心のある皆さん、私たちと一緒に障害のある人々やその家族の幸せのために働いてみませんか。社会福祉法人落穂会は、障害のある人々の幸せを願い、そのために汗をかき、そのことにより自分も成長しようという「人財」を求めています。



「新しいとびら」

**中島 千尋**

入職年月 平成 25 年 11 月採用

配属先 障害児入所施設 あさひが丘学園

職種 保育士

教育や保育の現場で働いていた私にとって、子供たちの生活の場、家庭というのは未知の世界であり、とても興味がありました。この職場に入社して4ヶ月が経とうとしています。今まで大学や職場で勉強してきたにも関わらず、いまだに何故？何で？の繰り返しの中、驚きや喜びもあります。最近は喜びの方が多いような気がします。初めて名前を覚えてもらった時、嬉しすぎるあまり、何度も自分の名前を質問したり、同じ名前の子に「兄弟みたいだね」と話したりしました。相手がどう思っているのか、何を伝えたいのか分からず、悩んだ時も何度もありましたが、その度、先輩方が利用者の障害や癖等アドバイスを下さり、少しずつですがコミュニケーションを取ることができるようになり、利用者も笑顔で接してくれることが多くなりました。これからは、利用者の為に何が出来るのか、どうすれば充実した生活をここで過ごす事が出来るのかを悩み相談しながら見つけ出し、お互いが快適に生活を送ることが出来るよう支援していきたいです。



「入社一年目の経験を生かして」

**中村 貴巳**

入職年月 平成 25 年 4 月採用

配属先 障害児入所施設 あさひが丘学園

職種 保育士

入社してから、あっという間に一年が経ちました。私は、この職場で二回の実習を経て就職しましたが、実習の時とは違い、業務のひとつひとつに責任を持ってあたらなければならぬことに、始めは不安がとても大きかったです。そんな時、周りの先輩職員からのアドバイスやサポートに助けられ、それまでの不安がなくなっていき、そして「いずれは自分もこうならなくては」という気持ちが湧いてきました。この仕事をするにあたって、利用者との関わりが必須です。入社したての頃は、コミュニケーションに不安がありましたが、先輩方のアドバイスや利用者からの積極的な関わりで、今となっては利用者と過ごす時間がとても楽しく、時に励みにもなっています。これから入所される新規の利用者を暖かい気持ちで迎え、新しい環境に慣れて頂けるようにひとつのきっかけになれるような存在になればと思っています。

この一年で本当に多くの事を学びました。しかし、まだまだ自分に足りないものが多くあります。不足しているものを補い、それを業務に反映させて、利用者様により充実した生活を送って頂ける様、これからも励んでいこうと思います。





## 「利用者の方と共に学んだ一年」

### 前村 幸

入職年月 平成 25 年 4 月採用

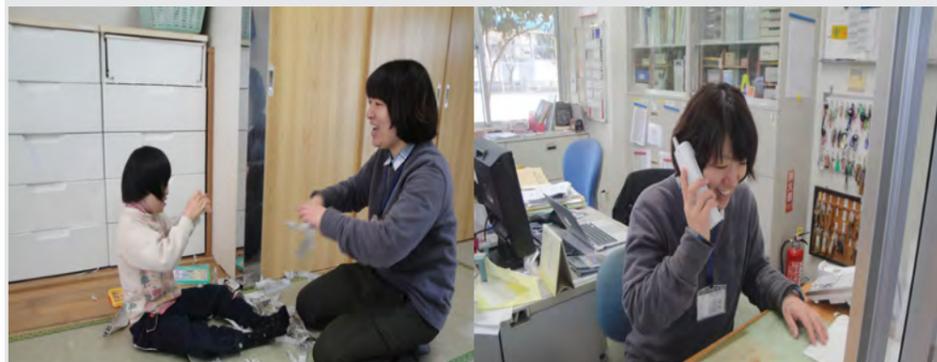
配属先 障害児入所施設 あさひが丘学園

職種 支援員

新しい現場で、早くも 1 年が経ちます。私は、福祉施設 3 年の経験を経てのスタートでしたが、関わる利用者の方の年齢層や職場での業務内容も全く違うもので初めは戸惑うこともありました。しかし、先輩方のアドバイスや楽しく利用者の方を思って働いている姿を見て勉強になり、良い刺激ともなりました。

また、年齢や活動内容が違って愛情を持って利用者の方の元へ足を運び関係を築いていくことの大切さを改めて実感している日々です。くじけそうになる事があった時でも利用者の方の笑顔が励みとなり、逆に元気をもらうこともあります。この仕事だからこそ、味わう事の出来る瞬間だと思います。

利用者支援には、正解や終わりが無いと感じることが多々あります。それは難しくもありますが、その都度利用者と共に考え、共に学んでいくという面白さがあります。また、その日々を一緒に過ごす中で良い関係が築きあげられていくのだと思います。これからも、その時々を大切に、利用者の立場で物事を考えてお互いに成長できるような支援をしていきたいです。



## 「心の琴線にふれる職業」

### 白石 瞳

入職年月 平成 24 年 8 月採用

配属先 地域生活支援センター こどもサポートセンター我

路職種 児童指導員

「ありがとう」と両親や兄弟、親友など特に身近な人に対しては気恥ずかしくて案外言えないものですが、私は仕事を通して利用者からこのような気持ちを伝えることの大切さを学ばせてもらいました。相手に感謝し続けることで、不思議と今まで見えなかったことが見えてくるものです。

私は現在、児童発達支援事業に所属しており、発達が遅れている子どもたちの療育を行っています。子どもたちと接していつも思うことは、「人の役に立ちたい」と真摯に願う気持ちの素直な子が多いという事です。しかしながら言葉でうまく気持ちを伝えられない為に、本人たちは私たちが想像できないようなもどかしさを感じています。そのためこのような根底にある気持ちに寄り添い、自らの意思でこちらが求めていることをしてくれた際には、「ありがとう」という言葉を掛けることと意図的にそのような機会を設けることが私の仕事上の本分であると感じています。

感謝されることや認められることで、今まで出来なかったことへ自ら挑戦していき、やり遂げた時の子どもたちの歓喜に満ち溢れた姿に深い感動を覚えることが決して少なくありません。子どもたちの「できる力」を信じ、将来を見通して大切な時期を支える今の仕事にやりがいを感じる毎日です。



## 「成長の場」

宮田 知美

入職年月 平成 23 年 4 月採用

配属先 障害児入所施設 あさひが丘学園

職種 保育士

あさひが丘学園に入社して3年が過ぎました。毎日があっという間に過ぎていきますが、この歳月を振り返ると、人として「成長」することが出来たのではないかと思います。

利用者の方々と過ごす時間の中で、自分の支援や思いがうまく相手に届かず、悔しい思いをすることもありました。しかし、利用者の方と向き合った分だけ自分に返ってくるものがあると感じています。

あさひが丘学園には幅広い年齢、様々な障害を持った方々が生活されており、その方々の大切な人生の中の同じ時間を共有し、共に様々な経験が出来ます。

また、日々の生活の中で利用者の成長を身近に感じられ、共に喜ぶことが魅力です。また、常に明るい雰囲気笑顔の絶えない施設であり、小さな優しさや気遣い、心配りの大切さを学ぶことが出来ました。今後も利用者の方々と共に、日々学び、成長していきたいと思っています。



## 「大切な日々」

安田 花子

入職年月 平成 23 年 4 月採用

配属先 障害者支援施設 あさひが丘

職種 支援員

「うあー」という声と共に手を叩く音が聞こえる。目の前には駆け足で近づいてくる満面の笑みを浮かべた利用者の姿。これが私のあさひが丘での一日の始まりです。

入社時は、言葉にできない緊張や不安がありました。言葉でのコミュニケーションが難しい利用者の方は、そっと顔を近づけて優しく見つめ、私を受け止めてくれました。日々を共に過ごし、思いに寄り添う事で、少しずつ距離を縮め、互いに理解し、信頼できる関係へと成長してきました。利用者の方がいたから支援員になる事が出来たと思います。

生きるために少しだけ、周囲の支援が必要なだけの同じ人間です。利用者の方の生きようとする力強い姿やすべてを包みこむ笑顔は、ここでしか見ることのできない大切な景色だと感じます。家族のように利用者の方が愛しく、一人ひとりの幸せを心から願っています。同じように大切に思う存在が増えればいいなと思います。





## 「成長を支える」

### 瀬戸 祐子

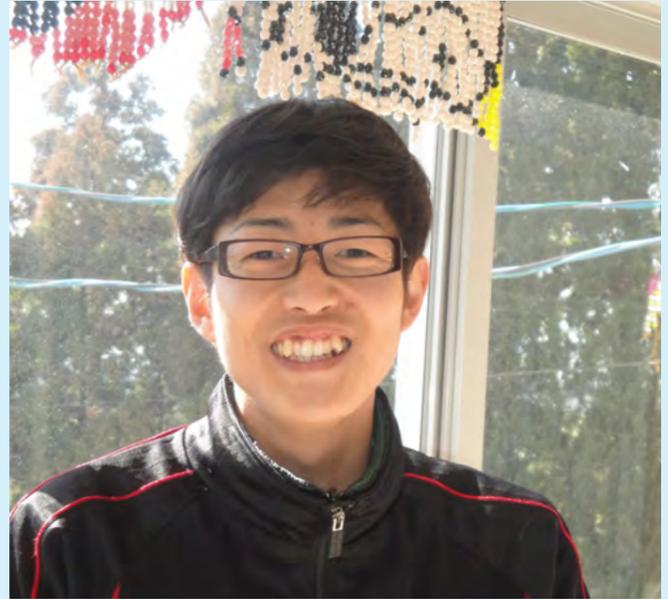
入職年月 平成 21 年 4 月採用

配属先 地域生活支援センター グループホームあさひが丘

職種 支援員

あさひが丘学園に入社して5年になります。最初の3年間は障害者支援施設あさひが丘で入所支援、その後は、グループホームで生活している方の支援をしています。また、今年度はヘルパーとして、在宅で生活している方ともお会いする機会ができました。園長先生の「まかれたところで咲きなさい」の言葉は心に残り、色々な部署で多くの経験をしてきました。

特にこの2年間は、利用者の身近で接するようになり、利用者のちょっとした成長がうれしい毎日です。利用者の成長に関われるとき、やりがいを感じます。ホームの利用者には「～したい」という夢や希望がたくさんあります。もっと成長する姿が見たい、夢を叶えてあげたい、そのためには何ができるだろうと考えることが、今の私の課題です。経験のある先輩は、私が思いつかない利用者との関わり方や意見をたくさん助言してくれます。これからも利用者の生活が豊かになるように頑張っていきたいと思えます。



## 「共に生きている」

### 高橋 一彰

入職年月 平成 19 年 4 月採用

配属先 障害者支援施設 あさひが丘

職種 支援員

人と接する仕事がしたい！という方は多いと思います。多くの仕事がある中、私はこの仕事を選びました。

朝の「おはよう」。帰ってきた時の「ただいま」。「今日はどうだった?」「疲れた。でも頑張った!」。そんな何気ない会話。ここではたくさんの利用者さんとこんな会話をします。表現の仕方は一人一人違います。でも一緒にいると解ります。教わるとか、教えるとか、そういう事ではなく、一緒にいると何となく感じます。反対に「辛い」「大変だ」「怒ってる!」なんて、皆が困っている事も解りますが、なかなか解決できない事もあります。そんな時、自分達も辛い思いをします。

けどそれだけではありません。楽しみにしていたイベントや何気ない日常でも、皆と一緒に大はしゃぎをした事もたくさんあります。

こんな毎日を皆と一緒に過ごしていたら、色々な事がありすぎて、時間が早く流れます。喜怒哀楽を一緒に過ごし、今も、これからも皆と共に生きています。



### 施設入所支援

施設入所支援では、主に、心や体の機能発達・維持を図り、生活に必要な知識や技能を身につけ、一人ひとりの持っている力に合わせて、なるべく自立した日常生活を送れるよう、施設内で入浴、排せつ、食事等の生活介護やその他の日常生活上の支援、夜間の生活支援を行っています。

生活支援では、利用者の豊かな生活を目指し、職員間で意見を出し合い毎年テーマを掲げて取り組んでいます。このところでは、口腔衛生、余暇支援の充実など目標を立て取り組み目に見えた変化や成果は職員のやり甲斐となっています。

特に、余暇支援では地域への外出、職員の特技などを活かした休日のレクリエーションは利用者の方々にも人気です。普段の生活とは違った新たな一面の発見にもつながっています。

今後も利用者一人ひとりの笑顔が増え、施設生活が豊かで楽しい生活となるように支援に努めていきます。

### 生活介護

生活介護では、利用者個々の障害に応じて、①生活介護・生産活動系（日中1科）、②生活介護・創作系（日中2科）、③生活介護・療育系（日中3科）、④生活介護・リハビリ系（日中4科）の4グループに分かれ、それぞれの目的に応じた日中活動プログラムを実施しています。

あさひが丘の活動では、利用者の充実した生活を目指し、日々の活動の中で「働くこと」や「個々の能力」を発揮できるように支援しています。最初は、出来ないのではと思っていたことも時間をかけ繰り返し経験することで、出来るようになった時は一緒に、あきらめず取り組んできて良かったと思える瞬間です。利用者も出来たことに対して自信をつけ、ハンディがありながらも一生懸命、作業やリハビリ等に取り組む姿は感動するばかりです。

今では、作業によっては工賃を得ている利用者もいます。工賃を得た時の利用者の笑顔、保護者の喜びは印象的でした。

このように活動を通して利用者・保護者の笑顔と喜びは私達の仕事のエネルギーとなりまた、自分の喜びとして感じられる仕事であります。



成人部統括主任

宇都 裕也

平成 15 年 7 月採用



日中活動統括主任

羽月 浩二

平成 16 年 5 月採用

あさひが丘学園では、未就学のこどもから概ね20歳までの方々が、様々な理由により親元を離れて生活しています。年齢の幅が広いですが、集団生活の中で兄弟姉妹のように過ごしています。

朝起きて「おはよう」の挨拶に始まり、着替えや排泄、食事や入浴、整理整頓等日常生活動作の支援をはじめ、集団生活の中で決まりや順番を守ること等社会におけるルールやマナー等も日常的に身につけられるように関わっています。また、一人ひとりの成長、発達段階に合わせ、より自立するように根気強く向き合っており日々の支援を行っています。

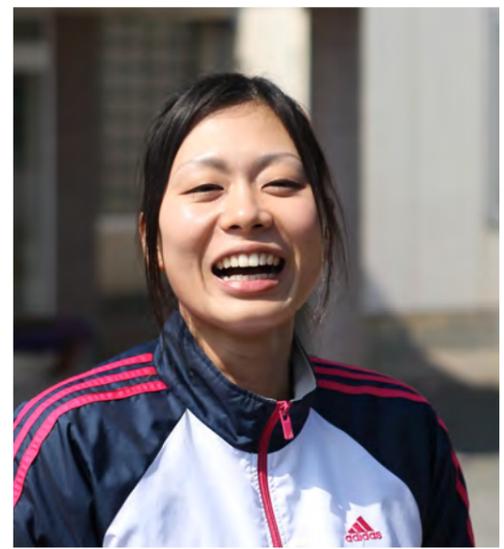
休日には、ドライブや工作、季節の行事など余暇活動にも取り組んでいます。また、長期休暇には、プールや海水浴、カラオケボックスへ出掛けたり、この他にも個別外出(買い物や映画、美容室等)の機会も設け、こども達が日々の生活に楽しみを持つことができるように努めています。

未就学のこどもたちは、同じ法人内の児童発達支援にて療育を受けています。就学児童は、特別支援学校(小学部・中学部・高等部)や近隣の小中学校の特別支援学級へ通っています。

学校とはPTAや授業参観、運動会などの行事や個別の教育相談、情報交換会などへ職員も参加し、学園と学校との連携を行い、統一した支援ができるように努めています。

また、高等部卒業後の進路について、本人やそのご家族と考えていくことも大切な業務です。ひとりひとりに合った生活の為に障害者支援施設やグループホーム、働く場の選択等必要に応じて見学や実習などの経験を積ませ、移行支援を行っています。

この他、在宅サービスとして、短期入所の受け入れを行っています。普段、自宅で生活しているこども達へ安全に楽しく過ごすことができるようにサービスも提供しています。



児童部統括主任

濱田 絵里佳

平成18年4月採用



## 地域生活支援センターあさひが丘

### 児童発達支援センター「<sup>ぼろ</sup>歩路」

歩路では未就学児（概ね1歳6ヶ月～就学前）の療育活動を行っています。  
療育内容は、対象児によって異なりますが、子どもの発達段階や状態像に合わせて、常勤の臨床発達心理士が療育について助言指導しながら個別療育を基本に実施しています。  
年齢や発達状態を考慮してのクラス編成で、3クラス（8～9名）に分かれて活動を行っています。  
運動・感覚・対人関係・ADLについて、絵カードやパネル・環境設定を工夫しての活動です。  
ちいさなこどもの毎日は、ちいさな出来事がいっぱいです。  
そのひとつひとつが おおきな一歩へつながります。  
4月のこどもは、泣いて自分の思いを伝えていました。  
3月の子どもは、ことばや笑顔で気持ちを表します。  
たった一年は、とてもとても 大切な一年です。  
私たちは、そんな責任を毎日こころに積み重ねています。



### 放課後等デイサービス「<sup>がろ</sup>我路」

放課後等デイサービス我路では、特別支援学校や学級に通っている小学1年生～高校3年生までの就学児を対象としています。屋内・屋外での遊び、制作活動、調理等の活動を行っています。活動を通して、友達とのかかわりや社会性・ルールを身に付けられるように取り組んでいます。その他、日常生活面の支援（着脱衣・排泄介助等）を行います。  
小学生から高校生まで、また障害の程度も様々な中で個々の状態にあった支援を行っていくのは難しい場面や工夫や必要などところもたくさんありますが、学校や家庭と連携を取り支援を行っています。正直、楽しいことばかりではなく、子どもたちとぶつかったりすることもあります。大人になる過程でほんの少しのお手伝いができ、子どもたちの成長を間近で感じられる、その喜びが私たちの原動力になります。



## ワークショップあすもね

ワークショップあすもねの利用者は工賃（賃金）の受給を目標に、委託作業（公園清掃・内職・段ボール組み込みなど）を中心に生産活動を行っています。作業は単純な工程の物から、手先を起用に扱う必要のある作業種まで様々で、失敗したり、作業に集中できないこともあります。支援員と一緒に作業を行っている利用者の方たちと協力しながら作業を行っています。

作業を実施していただく中で、利用の方に「働くこと」や「働いている」ということを理解・意識をしてもらえるように、社会で必要とされる基本的な挨拶や返事、報告、身だしなみなどの意識付けを大切にしながら私達スタッフは業務を行っています。私達支援員の仕事は「仕事の場を提供すること」です。障害を持っている方が自分の仕事や役割を持ち、その取り組みや成果に対して賃金（給料）が支払われて、自分のやりたいことを実現できる。私達にとっては当たり前のことかもしれませんが、その当たり前のことがすごく大きなことなのではないかと私達は感じています。

作業時間や製品を納品する時間を守ることや、正確な商品を作ってもらうために、私達支援員は、丁寧な作業を心がけています。その中で、利用者の方が自分で出来る事は自分ですることや、ゆっくりでも自分の決めた目標を達成しようとする姿が増えるなど、目に見えて利用者の出来ること、出来るようになったことを実感できた時には自分の仕事にやりがいを感じます。



## ヘルパーステーションとわ

ヘルパーステーションとわではホームヘルプサービスを行っています。子どもから大人まで様々な方の利用があり、サービスの種類には、居宅介護、行動援護、移動支援とそれぞれ用途があります。サービスの幅は広く、個々に応じたサービスの提供が必要となります。

様々なケースに対応させて頂き、私達ヘルパーは利用者との時間を楽しみながら学ぶ事も多々あります。外出した際は、利用の方が公共の施設をスムーズに利用できるよう先を見越した支援が必要となってきます。ほんの少しの支援がある事で利用する方々の楽しみができたり、居心地のよい空間ができる等、生活の幅が広がると私達も嬉しく思います。彼らに気づかされる事もたくさんあり、人とのつながりを感じる事がこの仕事の魅力のひとつです



## グループホームあさひが丘

グループホームあさひが丘には、現在、5つのホームがあります。花梨、つばさ丸、くるみ、四郎丸、ももかに、男性13名、女性12名の利用者が生活しています。

利用者は、日中、就労継続支援B型事業所や一般就労先で働いており、2年に1回、東京や大阪などに、旅行に行くことを励みに、毎日仕事を頑張っています。

多くの方が「お給料を貯めて旅行に行きたい」「いろいろなところに出掛けたい」「ひとり暮らしがしたい」という希望を持っています。毎日元気に仕事に通ったり、自分のことは自分でできるように練習をしています。私たちの仕事は、そんな利用者の生活が豊かになるように、一番近くで支えることです。利用者が困ったときに頼ることが出来る、安心できる存在になりたいと思います。



## あさひが丘相談支援センター

あさひが丘相談支援センターでは、障害のある方やご家族の日々の生活における悩みなどのご相談を受けています。

障害のある方が地域での生活を送るうえで様々な困難に直面することがあります。移動やコミュニケーションの困難さ、置かれた状況等により自らの確にサービスを利用していくことに困難を抱えている場合が多いといわれています。特に地域ではサービスや資源が広く散在しているため、自分が利用できるサービスや資源について情報を得て、自分で利用の手続きを行っていくことは大変な作業になると思います。私たち相談支援専門員はサービスや地域資源等の幅広い情報提供をおこない、活用できるサービスについて説明し、望んでいる生活に近づけるようサービスの調整を行っています。また、福祉サービスを初めて利用する方にとっては大事な入口となりますので、安心して相談できるような場所・相談支援専門員でありたいと思っています。



## ガーデンキッズセルク・トリア

ガーデンキッズセルクは未就学のお子さんを対象とした児童発達支援事業として平成24年7月に開所され、多くの方にご利用して頂いています。セルクには午前と午後の部があり、1グループ6人の子どもたちと職員が一緒に遊び、過ごしています。午前の部は主に、1歳半～3歳の子どもたちが利用しており、母子分離で参加したり、親子で一緒に参加して頂いたり親子活動や保護者との関わりも大切にしています。午後の部は主に幼稚園や保育園に通っている子どもたちが利用しています。

ガーデンキッズトリアは平成26年4月に開所予定です。トリアには児童発達支援事業と放課後等デイサービスの機能を持たせ、様々なニーズの子ども達を受け入れながら楽しく過ごせる場を提供したいと考えています。児童発達支援事業では10時から14時、1日定員10名を対象に基本的な生活習慣の確立や集団で過ごせる場を提供していきます。放課後等デイサービスでは、就学後の子ども達を対象に社会で過ごす中で必要なスキルを身に付けていけるよう支援していきます。

両事業所とも、生活や遊びの場を通して、子ども達の持っている力を引き出し、人との関わりや地域の中でのびのび生き生きと成長できることを目的にしています。また、ご家族の方が、お子さんの状態を適切に受け入れられ、成長を共に喜び合えるよう、家族支援も大切にしています。

子どもたち一人一人に合った療育（丁寧な支援）を提供できるよう、日々考え、悩むこともありますが、その分、子ども達の成長を間近で感じる事ができ、その喜び・感動は、とても大きく嬉しさを感じています。また明るく・働きやすい職場になるよう、職員間でのコミュニケーションも大切にしています。人として成長できる仕事・環境をととても誇りに思っています。

子ども達の元気いっぱいの姿や笑顔に癒されながら、職員一同、毎日楽しく過ごしています。

## ガーデンキッズマルヤ

ガーデンキッズマルヤは認可外保育所として生後2か月から就学前のお子さんをお預かりする保育所です。毎日登園する月極めのお子さんと一時預かりのお子さんが一緒に過ごし、音楽あそび、運動あそび、製作など様々な遊びに取り組んでいます。また、運動会、クリスマス会、豆まきなど季節の行事も取り入れ経験できるようにしています。天気の良い日にはマルヤガーデンズの屋上「ソラニワ」や近隣の公園に行き、思いっきり身体を動かしたり散歩にでかけたりしています。

子ども達の元気いっぱいの姿や笑顔に癒されながら、職員一同、毎日楽しく過ごしています。



# 事業所案内

## □障害児入所施設あさひが丘学園

入所 40 名・短期入所 4 名

職員数 20 名（男性 8 名・女性 12 名）

## □障害者支援施設あさひが丘

入所 40 名・生活介護 75 名・短期入所 4 名・日中一時支援

職員数 50 名（男性 16 名・女性 34 名）

〒 891-1206 鹿児島市皆与志町 2503 番地

TEL 099-238-4821 FAX 099-238-5737



## □地域生活支援センターあさひが丘

こどもサポートセンター「我路」

- ・児童発達支援「歩路」<sup>ほろ</sup> 20 名
- ・放課後等デイサービス「我路」<sup>がろ</sup> 20 名
- ・保育所等訪問支援
- ・日中一時支援

ワークショップ「あすもね」

- ・就労継続支援 B 型 20 名

ヘルパーステーション「とわ」

- ・居宅介護・行動援護・移動支援

グループホーム「あさひが丘」

- ・共同生活援助

花梨 5 名、つばさ丸 5 名、くるみ 4 名、  
四郎丸 8 名、ももか 4 名、とんぼ丸 8 名

あさひが丘相談支援センター

- ・指定一般・特定・障害児相談支援事業

職員数 35 名（男性 16 名・女性 19 名）

〒 891-1201 鹿児島市岡之原町 1392 番地

TEL 099-243-1112 FAX 099-243-1070



□ガーデンキッズセルク

・児童発達支援事業 10名

職員数 4名 (男性1名・女性3名)

□ガーデンキッズマルヤ (認可外保育所)

職員数 2名 (女性2名)

〒892-0826 鹿児島市呉服町6番5号

マルヤガーデン内3階連絡通路

TEL&FAX 099-813-8086



□ガーデンキッズトリア

・児童発達支援事業 10名

・放課後デイサービス 10名

職員数 5名 (男性1名・女性4名)

〒892-0826 鹿児島市呉服町2番15号

南星ビル2階

TEL 099-295-6520 FAX 099-295-6526



設置主体 社会福祉法人 落穂会 理事長 水流 國大

経営主体 あさひが丘学園 統括施設長 水流 純大



# 沿革

創設者 水流 國彦

1904 (明治 37) 年～ 1981 (昭和 56) 年



創設当時のあさひが丘学園正門

昭和 32 年 5 月

知的障害児施設の創設を決意し、鹿児島市永吉町の家屋移転整地作業に着工

昭和 33 年 8 月

児童福祉法に基づき、定員 50 名で知的障害児施設あさひが丘学園開設

初代園長 水流 國彦 就任

昭和 33 年 5 月

社会福祉法人落穂会を厚生大臣設立許可

初代理事長 水流 國彦 就任



開設当時の居住棟

昭和 37 年 4 月

女子寮増設により入所定員を 70 名に増員認可

昭和 39 年 4 月

宮内庁より御下賜金拝受

昭和 43 年 3 月

清水基金補助により作業棟 (コンクリートブロック室) 完成



天文館の清掃風景

昭和 48 年 8 月

鹿児島市永吉町より同市皆与志町へ移転工事着工

昭和 48 年 10 月

中央競馬財団の補助により機能訓練棟完成



機能訓練棟

昭和 49 年 8 月

鹿児島市皆与志町に改築移転

昭和 54 年 5 月

鹿児島県中央児童相談所の指導により在宅障害児地域療育指導事業 (母子通園) 開始

昭和 54 年 10 月

第二代園長 水流 國大 就任

昭和 56 年 6 月

おぎゃー献金よりマイクロバス及び固定遊具購入の補助金を受ける

昭和 56 年 10 月

落穂会 第二代理事長 水流 フミ 就任



移転当時のあさひが丘学園



平成 4 年 10 月

心身障害児短期療育事業 (利用入所) を開始

平成 9 年 5 月

落穂会第三代理事長 水流 國大 就任



平成 11 年 9 月

あさひが丘学園の定員を 90 名から 40 名に削減し、知的障害者更正施設あさひが丘学園成人部 (定員 / 入所 40 名・通所 10 名) を開設

第三代園長 水流 純大 就任

平成 13 年 6 月

鹿児島市障害児・知的障害者ホームヘルプサービス事業を開始

平成 14 年 4 月

鹿児島市中心身障害児放課後等対策事業 (児童クラブ「我路」) を開始

平成 15 年 4 月

指定知的障害者更正施設あさひが丘学園成人部、知的障害者短期入所事業、知的障害者居宅介護事業、児童短期入所事業、児童居宅介護事業の指定を受ける

平成 16 年 4 月

あさひが丘学園成人部の通所定員を 15 名に増員認可

平成 17 年 12 月

指定知的障害者地域生活援助事業 (グループホーム)「花梨」(定員 5 名設置認可)

平成 18 年 4 月

あさひが丘学園成人部の通所定員を 20 名に増員認可  
自立訓練棟「あしたば館」設置

平成 23 年 4 月

あさひが丘学園成人部が障害者自立支援法の新事業体系に移行し、障害者支援施設あさひが丘 (施設入所支援・生活介護) となる。

平成 24 年 7 月

児童発達支援事業「ガーデンキッズセルク」開設 (マルヤガーデンズ内)

平成 24 年 7 月

鹿児島市岡之原町に地域生活支援センター「あさひが丘」開設

平成 26 年 4 月

児童発達支援事業「ガーデンキッズトリア」開設



## 各種研修制度

地域福祉のキーパーソンとなるような知識と技能、そしてリーダーシップを備えた人材の育成に力を入れています。勤務年数や勤務の習熟度に応じた研修制度を設けています。

### ■新任職員研修

新任職員は社会人としてのマナーや基本的な対人援助について学びます。



### ■管理職研修

管理職に期待される役割を遂行するため能力を身につけ、実践の場で活用できるようにします。



### ■園内研修

毎月、月例職員会議時に各種テーマに基づいて職員が講師となり研修を行っています。



### ■テーマ別研修

年3回、外部から講師を招き、職員の支援員としての能力及び意識の向上を図っています。



### ■外部研修

日本・九州・鹿児島各知的障害者福祉協会主催の各種研修会等に積極的に参加しています。平成24年度は計47回の外部研修会に延べ133人の職員を派遣しました。全職員が研修会に積極的に参加できる機会を設けています。

### ■有資格者数（平成25年4月1日現在）

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
社会福祉士	7	ホームヘルパー	13	知的障害援助専門員	2
介護福祉士	9	介護支援専門員	3	知的障害者福祉士	1
保育士	47	看護師	2	養護学校教諭	1
社会福祉主事	19	管理栄養士	1	介護職員基礎研修	1

# 採用条件等

## 【事業所情報】

法人名 社会福祉法人 落穂会  
種別 障害児入所施設 あさひが丘学園 ・ 障害者支援施設 あさひが丘  
地域生活支援センター あさひが丘 ・ ガーデンキッズセルク・トリア  
所在地 〒 891-1206 鹿児島市皆与志町 2 5 0 3 番地  
連絡先 TEL 0 9 9 ( 2 3 8 ) 4 8 2 1 FAX 0 9 9 ( 2 3 8 ) 5 7 3 7  
E-Mail : asahigaoka@po2.synapse.ne.jp  
URL <http://www.asahigaokagakuen.jp/>  
代表者 理事長 水流 國大  
人事責任者 施設長 水流 純大 ( 担当者 : 支援課長 八反田憲治、事務 藤元祐 )  
設立年月日 昭和 3 3 年 8 月 1 日

## 【求人情報】

1. 募集職種 保育士・生活支援員
2. 募集人数 若干名
3. 応募資格 保育士・介護福祉士・社会福祉士・社会福祉主事 \*資格のない人も応募可
4. 勤務時間 日勤 8 : 3 0 ~ 1 7 : 3 0 早出 6 : 1 5 ~ 1 5 : 1 5  
遅出 1 1 : 3 0 ~ 2 1 : 0 0 夜勤 1 5 : 3 0 ~ 翌日 9 : 0 0
5. 休日 週休 2 日 ( 年間休日数 1 0 7 日 )
6. 残業 月平均 4 時間程度
7. 給与等 ①基本給 短大・専門卒 1 5 5 , 0 0 0 円  
大学卒 1 7 5 , 7 0 0 円  
②通勤手当 1 , 0 0 0 円 ~ 1 0 , 0 0 0 円 ( 通勤距離により決定 )  
③住宅手当 2 , 5 0 0 円 ~ 1 0 , 0 0 0 円 ( 家賃額により決定 )  
④夜勤手当 1 回あたり 1 時間単価 × 2 5 % × 5.5 時間  
⑤処遇改善手当 月額 1 0 , 0 0 0 円  
⑥変則勤務手当 早出・遅出・断続勤務のある職員 月額 8 , 0 0 0 ~ 1 2 , 0 0 0 円  
⑦扶養手当 配偶者 : 1 3 , 5 0 0 円、子 : 6 , 0 0 0 円  
⑧賞与 年 2 回 3 . 8 ヶ月 ( 初年度 3.0 8 か月 )  
⑨昇給 年 1 回 約 3 , 6 0 0 円  
\*賞与・昇給は人事考課により変動有り  
⑩社会保険等 健康・厚生・雇用・労災・退職共済

※給与条件等は平成 26 年度採用の方のものです。

## 【応募・選考要領】

1. 選考方法 書類選考・小論文・面接・健康診断
2. 日程 ①職場訪問期間 平成 26 年 11 月 4 日から 11 月 27 日  
②応募受付期間 平成 26 年 11 月 4 日から 11 月 28 日  
③採用試験期間 平成 26 年 12 月 1 日
3. 応募書類 履歴書・卒業見込証明書・資格取得見込証明書・成績証明書・健康診断書

## 採用に関するQ & A

Q1. 希望する施設へ配属されるのでしょうか？

A1. 当法人では、複数の施設を運営しております。その中から皆さんの適正などにより、配属の施設を決定しております。面接時に皆さんの希望などもお伺い致しますが、施設の状況も鑑みながら決定しています。

Q2. 勤務してからの異動はありますか？

A2. 各施設間及び施設内での部署異動もあります。

Q3. 寮などはありますか？

A3. 寮はありませんが、住宅手当（最高1万円）が支給されます。自宅外の通勤の方は通勤に便利な立地でのアパートを借りられている方が多いようです。

Q4. 勤務しながら資格は取れるのでしょうか？

A4. 社会福祉士の資格取得を推奨しており、スクーリング参加のための勤務の配慮、資格手当の支給を行っています。その他の資格についても取得するよう職員に促しております。

Q5. 自己啓発のための研修に対して補助は何かありますか？

A5. 日本知的障害者福祉協会が行う「知的障害援助専門員養成通信教育」の受講者には、受講奨励金として、受講料の一部補助を行っています。

Q6. 仕事の成果に対する評価や昇給はどのように決定されるのでしょうか？

A6.1年目の職員に対しては年4回、2年目の職員に対しては年2回の育成面接を行っています。入職後、原則として2年間は人事考課を行わず、評価結果は標準評価となります。3年目以降は人事考課及び結果面接を年2回実施し、人事考課の結果は賞与及び翌年度の昇給昇格に反映されます。

## 採用学校実績

4年生大学

鹿児島大学・鹿児島国際大学・鹿児島純心女子大学・鹿児島女子大学・川崎医療福祉大学・九州看護福祉大学・九州女子大学・九州保健福祉大学・筑紫女学園大学・千葉大学・筑波大学・獨協大学・日本大学・広島大学・福岡県立大学・福岡大学・横浜国立大学

短期大学

岡崎女子短期大学・鹿児島県立短期大学・鹿児島純心女子短期大学・鹿児島女子短期大学・鹿児島短期大学・活水女子短期大学・九州龍谷短期大学・久留米信愛女学院短期大学・駒沢女子短期大学・佐賀短期大学・頌栄短期大学・第一幼児教育短期大学・筑紫女学園短期大学部・西日本短期大学・東九州短期大学・宮崎女子短期大学

専門学校

麻生医療福祉専門学校・奄美看護福祉専門学校・赤塚学園ビジネス専門学校・鹿児島医療技術専門学校・鹿児島医療福祉専門学校・鹿児島情報ビジネス専門学校・鹿児島中央看護専門学校・加世田医療福祉専門学校・神村学園医療福祉専門学校・九州スクールオブビジネス・城西プロフェッショナルカレッジ・原田学園こども医療秘書専門学校・宮崎医療管理専門学校

高等学校

鹿児島高校・加治木女子高校・加世田女子高校・甲南高校

社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園

〒891-1206 鹿児島市皆与志町 2503 番地

電話 099-238-4821

FAX 099-238-5737

<http://www.asahigaokagakuen.jp>

